中学地理プリント（過去問類似）
関東地方

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 千葉県における2015年の統計では、夜間人口（常住人口）が約622万人であるのに対し、昼間人口は約558万人となっています。このように、夜間人口に対する昼間人口の割合を示す指標を「昼間人口比率」と呼びますが、このデータに基づいた場合、千葉県の値はどの区分に該当しますか。 （2019年　和歌山公立入試　類似）

1. 90未満　**2.** 95以上100未満　**3.** 100以上105未満　**4.** 110以上

問2 日本の工業出荷額の統計において、中京工業地帯に次ぐ規模を維持し、近年その割合を上昇させている北関東工業地域の背景について、正しい記述はどれですか。 （2022年　佐賀公立入試　類似）

1. 高速道路を利用したトラック輸送の利便性を活かし、内陸部に電気機械などの加工組立型工業が集積したため。

2. 太平洋沿岸の良好な港湾施設を活かし、海外からの原料輸入に依存する鉄鋼業や石油化学工業が発展したため。

3. 豊富な地下資源と水力発電を利用するために、山間部へアルミニウム精錬工場が数多く誘致されたため。

4. 東京に近い利点を活かし、中小規模の工場による印刷業や食料品工業が都市部で高度に発展したため。

問3 関東地方の都県を比較した統計において、ある都県では、夜間人口（常住人口）に対する昼間人口の割合を示す「昼夜間人口比率」が117.8%という極めて高い数値を示しています。また、15歳から64歳の「生産年齢人口」の割合も周辺の県より高いという特徴があります。このような人口特性を持つ都道府県はどこですか。 （2021年　徳島公立入試　類似）

1. 東京都　**2.** 埼玉県　**3.** 茨城県　**4.** 千葉県

問4 神奈川県は日本でも有数の製造品出荷額を誇りますが、その工業的特色を支える京浜工業地帯の成り立ちや構造について、最も適切な説明を選びなさい。 （2026年　和歌山公立入試　類似）

1. 東京湾沿岸の良好な港湾環境を活かして埋め立てが進められ、製鉄所や石油化学コンビナート、自動車工場などの重化学工業が発展した。

2. 内陸部の広大な平野部を活用し、周辺の農村から供給される農作物を原料とした食品加工や繊維工業などの軽工業が中心となっている。

3. 都心の消費地に近い利点を活かし、住宅街の中に小規模な町工場が密集して、衣類や日用雑貨などの生活用品を主に生産している。

4. 県内で産出される石炭や鉄鉱石などの豊富な地下資源を背景に、明治時代から官営模範工場を中心とした重工業化が進められた。

問5 群馬県北部の地点から南東の埼玉県側の地点を結ぶ地形の断面的な特徴について、その標高の変化を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2024年　岡山公立入試　類似）

1. 標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形

2. 南東側の平野部から北部の山地に向けて標高が緩やかに上昇し、標高500メートル程度のなだらかな丘陵地が続く地形

3. 群馬県北部から埼玉県にかけて標高の差がほとんどなく、全域にわたって標高100メートル以下の平坦な土地が広がる地形

4. 北部の山地と南東の平野部の間に巨大な盆地が存在するため、中央部で一度標高が大きく下がった後に再び上昇する地形

問6 1970年代初頭から2019年にかけての関東地方における工業出荷額の統計的な変化について、正しく述べているものはどれですか。 （2022年　東京都公立入試　類似）

1. 総出荷額が約3.8兆円から約30.5兆円へと大幅に増大し、中でも輸送用機械の占める割合が全体の2割を超えるまで上昇した

2. 産業構造の変化により繊維工業の出荷額が急増し、2019年には地域全体の出荷額の約2割強を占めるようになった

3. 輸送用機械の出荷額は1971年時点がピークであり、2019年にかけて出荷額・割合ともに減少を続けている

4. 総出荷額は横ばいであるが、航空機産業の出荷額が約6.7兆円に達し、輸送用機械に代わる基幹産業となった

問7 東京23区では、周辺の県に比べて住宅地の平均価格が非常に高く、多くの人々が千葉県、埼玉県、神奈川県などの周辺地域から通勤・通学しています。この結果、夜間の居住人口に対して昼間に滞在する人口が約130.9%という高い割合を示していますが、このような人口の指標を何といいますか。 （2017年　佐賀公立入試　類似）

1. 昼夜間人口比率　**2.** 人口密度　**3.** 老年人口比率　**4.** 第一次産業就業人口比率

問8 千葉県や神奈川県といった南関東の沿岸部において、冬でも比較的温暖な気候となる自然要因として、最も適切な説明はどれですか。 （2022年　徳島公立入試　類似）

1. 暖流である黒潮（日本海流）が太平洋沿岸を流れており、周囲の気温を下げにくいため

2. 寒流である親潮（千島海流）が冷たい空気を運ぶことで、冬の乾燥を防いでいるため

3. 内陸から吹き下ろす乾いた季節風が、山地で暖められて沿岸部に到達するため

4. 日本海を北上する対馬海流が、関東平野に暖かい湿った空気を送り込むため

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **90未満**	昼間人口比率は「（昼間人口 ÷ 夜間人口）× 100」で算出されます。千葉県の場合、昼間の人口（約558万人）が夜間の人口（約622万人）を大きく下回っており、計算すると約89.7となるため、90未満の区分に該当します。これは東京などの都心部へ流出する通勤・通学者、いわゆる「千葉都民」と呼ばれる層が多いことを反映しています。
問2	**答え 1** **高速道路を利用したトラック輸送の利便性を活かし、内陸部に電気機械などの加工組立型工業が集積したため。**	かつての日本の工業は港を利用した臨海型の重化学工業が中心でしたが、北関東工業地域は「内陸型」の工業地域として発展しました。地価が安く広い土地が確保できること、そして高速道路網によって大消費地である関東地方や全国各地へのアクセスが良いことから、特に電気機械などの付加価値が高い加工組立製品の生産拠点となりました。この構造的な強みが、近年の出荷額割合の増加につながっています。
問3	**答え 1** **東京都**	政治や経済、教育の諸機能が高度に集中している東京都では、近隣の県から通勤・通学のために流入する人口が非常に多いため、昼間人口が夜間人口（常住人口）を大きく上回ります。特に、労働力となる15歳から64歳の生産年齢人口の割合が高いことは、企業や官庁が集中する大都市特有の構造を反映しています。これに対し、埼玉県や茨城県などは、夜間人口に対して昼間人口が少なくなる傾向にあります。
問4	**答え 1** **東京湾沿岸の良好な港湾環境を活かして埋め立てが進められ、製鉄所や石油化学コンビナート、自動車工場などの重化学工業が発展した。**	神奈川県の高い製造品出荷額は、京浜工業地帯の重化学工業によって支えられています。東京湾の波が穏やかで水深が深いという地形的利点を活かし、原材料の輸入や製品の輸出に便利な臨海部へ大規模な工場が集積しました。現在では加工組立型の自動車工業などの割合も高く、東京都から続く情報通信業の発展も相まって、多角的な産業構造を持っています。
問5	**答え 1** **標高2000メートルを超える北部の険しい山地から、南東へ進むにつれて標高が急降下し、広大で平坦な関東平野が続く地形**	群馬県と新潟県の県境付近には、三国山脈などの標高2000メートル級の険しい山々が連なっています。そこから南東方向の埼玉県側へ向かうと、標高は急激に低くなり、日本最大の面積を持つ関東平野へとつながります。このように、北西側の高い山地と南東側の広大な平野という対照的な地形が隣接しているのが関東地方北部の大きな特徴です。
問6	**答え 1** **総出荷額が約3.8兆円から約30.5兆円へと大幅に増大し、中でも輸送用機械の占める割合が全体の2割を超えるまで上昇した**	関東地方の工業は、約50年間で総出荷額が10倍近くに拡大しました。1971年時点では輸送用機械の割合は8.5%に過ぎませんでしたが、2019年には22.1%（約6.7兆円）へと急成長しており、自動車産業などが地域の経済を牽引する重要な役割を担うようになっています。
問7	**答え 1** **昼夜間人口比率**	常住人口（夜間人口）を100とした場合の昼間人口の割合を示す指標です。東京23区のように、周辺県から通勤・通学のために流入する人口が多い地域では、この数値が100を大きく上回ります。反対に、東京23区へ人口を送り出している周辺の県では、昼間人口が夜間人口を下回るため、この比率は100%未満（資料では92%以下）となります。
問8	**答え 1** **暖流である黒潮（日本海流）が太平洋沿岸を流れており、周囲の気温を下げにくいため**	南関東の太平洋沿岸には、赤道付近からの熱を運ぶ暖流の黒潮（日本海流）が流れています。暖流は周囲の空気を温める効果があるため、沿岸部では冬の冷え込みが緩和され、比較的温暖な気候が保たれます。これにより、房総半島などでは冬から春にかけての花の栽培なども盛んに行われています。